

ハ

古代歴史はローマの歴史の中を注ぎ込み、近世歴史はローマの歴史から流れたとランケは云ふ。ローマ以来ヨーロッパは一つの世界であつた。然るに今日は世界が一つの世界^となつた。
 此の^は科学の発達による機械工業の勃興、資本主義的經濟の發展と相違なく、如きものが原因となつたのである。世界が環境的^に一つの世界となつたと云ふことは、主体的なるものが否定せられ行くことである。帝^國主義^の逆^は一つの主体が世界とならうとする^{こと}である。一つの國家が世界を支配せうとする^{こと}である。かゝる傾向から帝國主義と

日本文化

×矛盾的自己同一の世界が環境的^に一つの世界とならうとする^{こと}は、



日本文化

云ふものが出て来るのである。一つの國家が強大な勢力を
 有つて居る間は、一時の平和が保たれるであらう。併しそれ
 は唯他^{へ民族}を奴隸化する事によつて可能なのであり、人間墮
 落への方向であるのみならず、又^{いつまでもかゝる勢力を}保持
 するものではない。他民族の勃興と共に悲惨なる戦争に
 陥るの外はない。その結果、人間文化の滅亡にも至るのである。
~~現代~~^{今日の}ヨーロッパの歴史が^{此危機を}證明して居る。と云ひ得るのであらう。
 今では云ふ。我々の祖國は我々と共に^{あり}、我々の奴隷であるも
 のである。我々は始かゝる事を屬して居る。それを通じて
 とは、^不なさい。我々の^{或物}を^{我が物}に充たす。神秘的な^{我が物}がすべて

かゝる場合

■■■■

我々の政治形態を構成

有様成すこののであると嘗てルイ十四世の下に於てのフ
 ランスはヨーロッパの侵略者であつたが革命後に現れたフ
 ランスは更に恐るべき侵略者ナポレオン^{のフランス}であつた。革命は、
 諸の国民の自己同一と^{その}諸國間の相互關聯の原理を破つことは
 できなかつた。喚起せられたものは却つて對立であつたと
 云^{はれる}。歴史はいつも此の如きものであろう。而して^{作り水たものから作るものへとい}そは
 人類の危機が含み居ると共に、又^{作り水たものから作るものへとい}その^{作り水たものから作るものへとい}から歴史的^{作り水たものから作るものへとい}の^{作り水たものから作るものへとい}物
 が^{世界}創造せられたる行くのである。唯今日世界が環境的の一々
 であるといふことは、全人類が歴史的危機に臨み居ると云
 ふことが出来る。世界歴史は、
 民族闘争の歴史である

×自由平等^を理念といた

日本文化

歴史家の云ふ如く、何処までも

日本文化

う。フランス革命の~~結果~~^{齎した}ものは、自由平等の人類社会ではなくして、民族の対立であつた。併し~~種~~^種は歴史は單に~~闘争~~^{闘争}の無意義な人間闘争の繰返しではなく、~~種~~^種はそこから新しい人間と云ふものが~~出て~~^{出て}来るのであると思ふ。それが新しい文化が生れると云ふことである。闘争が深く大なればなる程、然考へるべきのである。無論物質的^{左所謂}均^力衡と云ふものが~~平和~~^{安定}の基礎とならなければならぬ。併し人間は~~此~~^此世界は單にそれだけで~~維持~~^{平和}を保ち得るのでなく、~~新~~^新しい歴史的生命が生れなければならぬ^{と思ふ。}歴史的~~世界~~^{世界}の~~於~~^はて~~生~~^生れたいものは作らねばものから作るものへと~~して~~^{して}要求を有つたも

三三三三

日本文化

ものである。歴史の世界は無限なる傾向の世界である。一
 の歴史的時代が形成せしむると云ふことは、新しい人間
 が形成せしむることになけり。それは、それは、物質
 的資源の均衡と云ふことだけではなく、又抽象概念的な
 イデオロギーと云ふものでもない。ヨーロッパの中世は中
 世的人間があつた。近世ヨーロッパは近世ヨーロッパ人間
 があつた。今日それが行き詰つたのである。斯く云ふのは、歴
 史と云ふものを單なる^{イデオロ}進歩と考へるのではない。人間は歴
 作す水で作るものとして、歴史の中から生れぬものでなけ
 り。水はたよらない。

的地盤

日本文化

×(その底には世界衝動がある)。

世界が環境的よりとなければなる程、横の世界から縦の世界となればなる程、主体と主体との闘争は免れない。歴史は民族闘争の歴史である。主体と主体との闘争は、^{の間には、}直接に結合の仕様はない。民族とは、ランケが神秘的な或物と云ふ如く、非合理的な世界の形成力である。唯、水は作らぬものか、作用したものへといふ矛盾的自己同一的世界の種として、~~生産~~作用を媒介として結合して行くのである。血は水よりも濃しと云ふも、民族は單に血と云ふものではない。物質的資源との関係と云ふものが、^{水は}闘争の原因ともなるが、又結合の原因ともなるのである。併し、それは文化的結合の

日本文化

⊗形成作用的よりとなつてである。物質的より

■■■■

日本文化

至らなければ、眞の人間と人間との結合ではない。
 我々の創造作用は、^は ~~は~~ 於て一 ~~と~~ なること云い得るであらう。
^{それは} 我々が世思 ~~は~~ 創造の労働者となり、~~は~~ 技師と
 なることである。
 環境の一つの世界となつたと云ふことは、^は 非排其一つの
 主体が他を否定することであるが、環境が自己否定的に ^は ~~は~~
^{主体} となつたと云ふことは、^は 逆の主体が自己否定的に ^は ~~は~~
^{環境となつ} と云ふことであり、作られたものから作るものへと世界
 は自己自身を創造し行くことである。それは人間の世界と
 云ふものがあるのである。それは各の主体が何処までも自

それは至つて

は世界

下の世界

であり

去維新あり

創造構成して

己自身にありながら、一つの世界を構成し行くのである。而して斯くして一つの世界を創造し行くことが、~~主~~主体自身が生きたることである。ナヒモこの世界歴史も、民族闘争の歴史でありあつた。併し^{従来は}尚横の世界であつた。昔^は眞正世界は縦に一つの世界となつた。ヨーロッパは一つの世界であつた。~~と云ひが、~~徳等は植民地を有することによつて尚横の世界であつた。今日^はもはや植民地自身も縦の世界の中に入つた。世界は眞正縦に一つの世界となつた。かゝる眞正の世界史的闘争の危機から生れる人間の形態は創造的人間と云ふものでなければならぬ。私が~~我~~此処に創造と

日本文化

×徳等の植民地競争によつて、

四三三

Xとして兩者の非存在媒々となるとも考へ得るであらう。

東洋に於て創造的と考へられたる我國文化は、

の創造

我々は誰も彼も

云ふのは必ずしも天才と云ふ意味ではない。歴史的創造の

労働者^{であり}、技師^{である}と云ふことである。私は昔嘗て東

西文化形態と比較して、環境より主体へと、主体より環境へ

と云つた。や創造的人間の形態に於て西形態が^{一となり}非存在なけ

ればならない。而して我國文化は^{の自己}縦の世間形成^Xの~~非存在~~

~~非存在~~の~~あり~~、人は従来とも~~創造~~人間は特にヨーロッパ人

の如きは創造的であり、創造と云ふことが重んぜられたと

云ふでもあらう。併し従来は~~創造~~と云ふことが人間の中心^{性そのもの}

とは考へられなかつた。^{創造は}他の價値に~~従属的~~であつた。歴

史的制約のない、單に空間的な、私の所謂横の世界に於ては、

日本文化

× 迴光返照 ^ア あつた。

環境主体化

静觀的に陥つた。

云つた如く、東洋文化の特色は、^層主体の底から主体を越え
 と云ふ ^{あつた。} ~~あり~~ ^{あつた。} ~~あり~~ 此故に、^{世界の自己限定} 水は主体的なるものを越えて、^{了た。静觀的に陥つた。} 之
 を包むといふ意義を有しなかつても、創造的ではなかつた。
 又、^{環境主体化} 西洋文化が却つて創造的であつた。併し、^{了た。静觀的に陥つた。} 世界が何
 處に創造的であつたかは、何處までも主体的なるものを越え
 なければならぬ。絶対精神をも越えなければならぬ。環
 境即主体主体即環境として矛盾的自己同一的なる所に、世
 界が眞に創造的であつたのである。初 ^初 種々なる文
 化は、^初 原文化形態とも云ふべきものの種々なる
 方向への発展と云つた。原文化形態と云ふものは、右の如き、

■■■■

X云は、いつも原文化形態的である。一つの時代が定まると云ふことは、
 それが一つの重なるものとしてある。
 心

矛盾的自己同一的な創造的形態と考へべきであらうか、
 了原文化形態が時と場所を以て種々の限定せしめたる
 である。而して歴史の必然的必然時代は自己矛盾的な一から
 他へ変へ行くのである。之を私はメタモフォーゼと云ふので
 ある。歴史的世界は於て、唯
 一つの時代は一つの形態と云ふのでなく、無数の時代
 が同時存在するのである。併し一つの形態が支配的な所は、一
 つの時代が定まるのである。而して何処までも矛盾的自己
 同一的な原文化形態も一に定まると云ふことは、やか
 れが亡び行くことではなげればならない。歴史は單なる進歩
 ではない。併し又單なる変化でもない。

△それは抽象的となることであり、

日本文化

四三三三

又受継がたつものではなくして努力して得たものである。それは歴史的感覺を
 含んで居る、~~歴史的感覺~~ ~~歴史~~ 時と時を越えたものが一つとなつた感覺が
 が人士傳統的に持つものであると。
 歴史的

人間活動の中心を創造に置くこと、具体的な人間的存在
 を歴史的創造に求めると云ふことは、民族を無視すると云
 ふことではない、民族と云ふものなくして何等の歴史的形
 成と云ふものもなく、創造と云ふものもない民族と云ふもの
 のは單に生れたものでなく、作られた作り行くものである。
 全体的と個物的多との矛盾的自己同一なくして創造
 と云ふものはない。偉大な個人は、いつも或民族の代表であ
 るのである。偉大な傳統のみ大なる創造を生むことができ
 る。 ~~テ、エス、エリオットは云ふ、~~ 傳統とは ~~テ、エス、エリオットの~~ 過去と
 未来とが現在となり、永遠の今の自己限定として物

日本文化

新しい創造は、~~これ~~過去のものと同時存在するものである。
×新しく創造せしむるものは過去のものと同時存在的に生ずるのである。

のが傳統である。

所謂

創造は行く惟も非も其主たるもの、カタリストの如き
ものである。彼も即ちある。即ち歴史的感實である。然らざる
ものは單なる過去のの遺物に過ぎない。其に在り、古生物の
殘骸と擇ぶ所がない。創造に於ては人間は何処までも傳統
的なると共に、過去未來と同時存在的なるもの、~~永遠なる~~
もの、何物も未知へるのである。その真の人間は自由が
あつたのである。創造に於て人間は過去を受けると共に過去
を變ずるのである。傳統と云へば、人は一つの源と云ふもの
を考へる。併しそれは死せる傳統を考へることと外ならな
い。~~創造的な真の~~傳統ではなくして、~~抽象的~~概念に過ぎない。

日本文化

死せる傳統

自由

絶対矛盾的自己同一の世界の自己限定として、^{（ミヤコ）}無数の傳統が
含み込まれておけねばならぬ。而して生きた

本傳統は身と心とを矛盾的自己同一として、傳統と傳統と
*何処までも結合し行くものでなければならぬ。而して一
身心との偉大なる傳統が形成せらるるものでなければな
らぬ。唯、創造に於て、異なる傳統と傳傳統とが結合す
るのである。歴史的形能力として、歴史的空間に於て、何処ま
でも民族と民族とは相對立し立する。^{（然るが）}存在は歴史
形成と云ふことはない。併し、^{（力）}創業者の對立は闘争であり、^{（相互の）}自
滅である。創造に於て一となる所、人類性人間があるので
ある。そのかきり民族が國家として道德的^{（主）}主体であるので
ある。國家は單なる道德的當為ではなく、ランケの云ふ如

日本文化

西田三木

く道徳的エネルギーでなければならぬ。單なる權力でもなければ、單なる精神でもない。

我々が創造的となると云い、ことは自然發生的に非合理的な力と従ふと云い、ことではない。それは何物も創造することではない。歴史的現實は矛盾的自己同一として無限の方向を有すると共に、作らるるものから作らるるものへと、何処までもその水自身の審判^かの方向を有する。我々はかゝる世界の個物的多として、いつも絶対矛盾的自己同一^かとして對して居るのである。個物的なものは、然る云い、ことがあつて、

日本文化

我々は何処までも自己否定的で、か、了絶對矛盾的自己同一的
 的世界の個物として働く所、創造的であるのである。そ
 水^何何処までも物となつて見物となつて働くといふこと
 がなければならぬ。自己が客觀^照を照らす水と云ふこと
 がなければならぬ。それは何処までも科學的精神と云
 小もの^{一般}が包含されておなければならぬ。併しそれは單
 體的法則に従ふと云ふことではない。我々が^{歴史}歴史的創造
 の道具機關となると云ふことがなければならぬ。それは
 は^又客觀的な傳統と云ふものがなければならぬ。主体と環
 境とが矛盾的自己同一的、行為的直觀的な所、我々は

西川

日本文化

創造的であつたのである。それ^がポイエシスの物を見つと
 云ふことである。我々が物の中に入つて物の中かゝ物を見
 つと云ふことである。それは過去未来が現在に何処までも
 現在と同時に存在する歴史的空間の自己限定として、物を見
 つと云ふことである。それは我々の^{ポイエシス}思惟が尽き水ねはな
 らない^{高と}我々の^{ポイエシス}思惟的自己が世界の中を包み^行水^行かぎり世
 界はそれ自身に^行是^行十全なる表現を有するのである。行為的
 直観的であるのである。人間の存在^{と云ふことの本質}の中心が歴史的創造の
 歴史的社会的創造であると考え^{もの}へる時、ポイエシス^{もの}
 的^{もの}の自己の自覚と兼^{もの}云^{もの}ふ^{もの}が重要^{もの}な^{もの}水^{もの}は^{もの}な^{もの}る

四三三

かゝる立場から

又林の道徳は義務よりも奉仕とあると云ふことが出来る。奉仕

より義務が生ずるのである。

重要を意義を有つて来なければならぬ。

→ ^{非歴史的な} 合理主義の立場から人間の存在の本質が一般的法則

に従ふか否か考へらる。人間が合理的なうざらうべか

うざらうは云ふまでもない。併し具体的理性は歴史の形成力

でなければならぬ。人間の存在の本質は作り作り本質も

歴史の社会的創造であるのでなければならぬ。道徳的実

践とはかゝる世界を形成する上との目的は此にあるので

ありう。道徳的実践とは ^{我が作らぬ作らぬものとして歴史的} 世界を形成し行くことにな

ければならぬ。道徳的法則とはかゝる世界の自己形成の

法則でなければならぬ。我々の世界はかゝる意味に於て

日本文化

歴史

形成として歴史的社会的創造といふ外に、道徳的実践といふものはないのである。カントの倫理^学と云へども、その背後に歴史的時代性といふものを考へなければならぬであらう。サニエの「力への意志」の倫理^学も、ヘーゲルの國家と倫理國家中心の倫理も、~~かゝるものも考へずして~~得ない然云ふことが出来る。今日の新実證論的物理学者は、~~物理的~~物理的操作を離れ、物理的法則を考へてはならないと云ふ。種々なる物理学の根本概念^{の内容は}物理的操作から与へられぬはならないと云ふ。古典的物理学で考へられた様な我々の操作を離れた物理的世界そのものと云ふ如きもの

の歴史的自覚の時代である。歴史的社會的形成は國家が中
 心とならなければならぬ。歴史的形成的操作は國家的で
 なければならぬ。若しニーチエに至つて、帝國主義的傾向と結
 合するものがある。併し、^{ともなつた。} ~~歴史的世界の創造性と~~
 云ふものが極端に排他性を持つと思ふ。私は^{右の如く}道德の時代
 性を考へると云ふのは、道德は唯その時代時代のものだと
 云ふのではない。カントの人格的道德と云ふも、歴史的社會
 的^{形成}創造として、それは^{何の時代にも}無條件何処までも必要條件となるも
 のでなければならぬ。人格を無視する所、何等の歴史的
 社會創造もあることにはできない。ヘーゲルの國家道德と云

月事文庫
 X その意味を於ては 定言的命令 である。

日本文化

小ものは^{そのまゝが}歴史的社会的形成の道德として、^{も尚}今^{も尚}现实的道
 徳をなければならない。併し私はヘーゲルの時代よりも、今
 日は世界と云ふ小ものが^尚層表面に出て来たと思ふのであ
 る。それは毫も國家を輕視せうと云ふのではない。國家と云
 小ものが^{眞の}道德的國家として歴史的世^的界創造の使命を自覚
 すべき時に至つたと云ふのである。
 歴史的世^{推論式的に}界は^{進歩的に}單^{進歩的に}有理的^{進歩的に}行動^{進歩的に}するのでなく、作ら
 れたものか^{進歩的に}作らるものへと矛盾的自己同一的^{進歩的に}行動して行く
 のである。物主^{進歩的に}通^{進歩的に}して^{進歩的に}動いて行くのである。ゲーテは之を
 テモリーニツジュと云ふ。曰く「^{進歩的に}テモリーニツジュは矛盾を於てのみ現れ、

■■■■

従つて如何なる概念、更々如何なる言葉をも捉へず水得な
 いものである。それは神の**神**的ではなかつた。何となれば非理性
 的と見えたるが、それは人間のではなかつた。何となれば、悟
 性を有たなかつたが、それは悪魔的ではなかつた。何とな
 りば慈善的であつたが、それは天使的ではなかつた。何とな
 りばそれは**性**々他の不幸を喜ぶ様を見えたるが、それは
 偶然と似てゐた。何となれば何事の帰結とも示さなかつた
 から。それは神の攝理と似てゐた。何となればそれは**神**の
 指示したか、**神**のゲイテはかゝるデモニヤなものが働
 ナボレオンやカール・パウグスト、又はフリトリヒ大王

ペートル

大帝の如き個人を驚かすものと考えた。併し又神は其水の

みは存下事件の中に特著し現水了ものと考へた。今日

では現水は民族に於て現水と云ひ得るであらう。今日

その歴史的世界に於て、眞に主体的なるものが表面に出

たのである。

そのみならず

日本文庫

西田川